

その日は朝から曇りがちで、寒いなんてもんじゃない。いっぱい着込んで行つたつもりなのだが、それでも寒かったです。十時半からの予定なので、さっそく支度をしてお客さんが出て、ワーブステーションの職員ばかりで、お客さんがあまり見られない。誰もいなくて一人でやってもおかしいし、とりあえず、呼び込みをしようと、ワーブステーションをひと回りすることに決めました。

「犬も歩けば棒にあたる」の例のとおり、棒に当りました。五・六人のグループ、二・三人のグループ、そしてバラバラのお客さんに声をかけながら、ひと回りして帰ってきたところ、もう、実演の垂れ幕の前にはお客さんがけつこう集まっています。呼び込みのとき、何回か、しゃべっていたので、雰囲気がとても良く、スムーズに口上に入ることができた。従って緊張感の方は少し欠けましたが、何かつかめたような気がします。話は変わりますが、口上の途中で、「この紙吹雪は非常に縁起の良い代物」「財布の中身が倍、倍となるからたまらない」との口上の途中で、幼稚園児ぐらいの子が、撒いた紙をほとんと一人で拾ってしまった。これには参りました。でもお掃除にはなりましたが、帰りに専務にあいさつをすませ、遅い昼食を食べに下のレストランに入りました。食事が終わり、代金を払いに行くと「がまの人でしょ、今日は寒かったですよ」「お金いいですから」と、どうしても取ってくれない。ではごちそうになります。と言つて帰つてまいりました。本当に良い話でしょう。おかげ様で、楽しい一日を過ごすことができました。



文芸コーナー

川柳

がま仙人

あかあかと隣の柿が熟したり
 手をついて挨拶出来ぬ家が増え
 健康器また押入れの仲間入り
 方言で謀ると舌がよく回る
 体重計悲喜こもごものまきのせ

- 小野小町文芸賞 俳句部門 一般の部 恵藤マキ
- 大賞 鶯や小町の里の水明り 浜田浦蛙
- 優賞 虫時雨山にずしりと山の闇 和田綾子
- びしよ濡れの一花もありぬ花昌帝 和野す枝
- 声出して橋の名を読む夜の秋 藤崎す枝
- 鶺鴒高音水車は水を送りけり 平野 貴
- みんみんや故郷の木混み合へり 松本淳子
- 小野小町文芸賞 短歌部門 一般の部 岡本 恵
- 大賞 新しき命を両の腕に抱き 今に忘れず七十年過ぐ
- 優賞 新芽よし若葉またよし天を指す 冬の櫓の梢なおよし 高野 義則
- 電灯の始めて点きし煌めきを 今に忘れず七十年過ぐ 木村 佳

編集後記

春色ようやくとこのいうぐいすの音もしきり、なんとなくのどかな今日このごろとなりました。がま研かわら版の原稿も会員皆様方の熱心なご支援によりご投稿いただき、後二号を発行することかでき、そのご厚意に對し心から感謝の意を表します。さて、次号は平成十三年六月中旬に発行予定でありますので、ご多用中誠に恐れ入ります。五月末頃までに、皆々様より多数ご投稿たまわりますようお願いいたします。お願ひ申し上げる次第でございます。

なお、「がま研かわら版」中「文芸コーナー」(俳句・短歌・川柳など)にも、ふるってご投稿くださるよう併せて願ひ申し上げます。
 天候不順の折
 ご自愛ください。

編集 子